オー！レック
OH! REC.
Vol.10
2008.10.1
小郡市人権センター通信
Ogori Human Rights Education Center → "OH!REC

宇梶さんが語る「アイヌ民族問題の今」

人権センターでは、市民のみなさんが人権問題と自分自身とのかかわりを見つめ直し、人権問題を解決していくための主人公として生活されるための学習の場として「公開講座」を開いています。

前回は２月に俳優の宇梶剛士さんをお招きし、「失敗から学ぶこと」というテーマでのお話をしていただきました。その中で自分の母親が「アイヌ民族問題」に取り組んでこられていることも語ってくださいました。

「アイヌ民族問題」は、アイヌの人々が独自の文化や社会をつくっていた地域に日本人が勝手に侵入し、土地を奪い取り、文化を否定し、経済的にも不利を強いながら、日本人と同じようにすることを強制してきたことに原因があります。そして、アイヌ語などを禁止したうえに、「旧土人」という悔辱的な呼び名をつけ、学校や地域社会で、また就職や結婚の際に差別を平然と行ってきました。

こうした問題に対し、宇梶剛士さんのお母さん、宇梶静江さんが声をあげ始めたのは40年近く前のことになります。またそのかたわら、アイヌししゅうの技術を習得し、工芸作品や絵本づくりなどの文化活動もされてきました。今年は８月に「洞爺湖（環境）サミット」が行われましたが、それに先だって同じ北海道で「先住民族サミット」が行われました。宇梶さんはその代表として、海外から約20人の先住民族を招いて環境や権利の回復などの意見をまとめ、各国の首脳にアピールするという大役も果たしておられます。

「アイヌ民族問題」は決して過去の問題ではなく、現在もアイヌの人々は民族としての尊厳を踏みにじられ、厳しい経済的格差や社会的差別に苦しめられているのです。それはまた、同和問題をはじめとする多くの人権問題との共通点を感じさせます。

そこで今回の人権センター公開講座は、宇梶静江さんに講師をお願いし、「アイヌ民族問題」から人権について考える場にしたいと、下記の日程で計画しています。九州に住む私たちにとって、「アイヌ民族問題」は遠い北海道の問題とすませてしまいがちですが、宇梶さんのお話から、一人でも多くの市民のみなさんの身近な問題にできたらと思っています。

（文：有田）

人権センター公開講座(5)

宇梶静江さん「アイヌ民族問題の今」

10月29日(水) 19:30～21:00

人権センター・大集会室

※事前学習会　10月15日(水)19:30～21:00　人権センターにて

☆お問い合わせは人権センター(TEL 80-1080)へ

「電磁波障害」って!?

今年の初め、久々に電車に乗る機会がありました。普段は車で出かけることが多く、あまり公共交通機関は利用しておりませんでした。夕方でもあり人が多く、座席に座ることができなくて吊り革に手をやり、なんとなく周囲を見ると、車内のあちらこちらで携帯電話を覗き込んだり、メールのやりとりが行われたりしていました。私も何気なく携帯電話の待ち受け画面を見ました。当然電源はＯＮになっております。ふと正面窓際を見ると「優先席付近では携帯電話の電源を切ってください」とステッカーが貼ってありました。若干の後ろめたさはあったものの、自分は通話もしていないし、マナーモードにしているからいいだろうと安易に思い、そのままにして降車してしまいました。

後で調べてみると、満員電車の中など人が多く集まるところではペースメーカーや除細動器を装着している方に近づく可能性があります。携帯電話は電源がＯＮになっているだけで「電磁波」が出ており、携帯電話から22cm以内ではペースメーカーなどが誤作動を起こす可能性があると言われています。

私たちは日ごろ暮らしの中で、さまざまな障害のある人と出会っています。しかし「周りにそのような人がいないから自分には関係ない」と思っていないでしょうか。

「障害のある人と人権」

私たちは健康であることを、病気や障害のないこととして捉えてきてはいないでしょうか。それでは病気や障害と向き合いながら懸命に生きる人たちは健康ではないのでしょうか。人間が様々な状態を持つのは当然のことです。障害を個人の問題ではなく、個性と考え、「障害が不幸ではなく、障害があることで生きられない社会が不幸」という捉え方をしてみたらどうでしょうか。たとえば足が不自由な人の問題はいつでも自由に移動できないことです。しかしサポートする人間関係やハード面（施設、道路、駐車場、公園等）などの連続性のある「面」的な環境が整備されれば、もはや不自由は少なくなってくるのではないでしょうか。このように考えていくと、障害を持つ人に優しい社会は、みんなが暮らしやすい社会であるのです。（文：井手）

※このマーク、何のマークか知っていますか？

1

2

3

4

5

6

7

8

答は３ページの下にあります。

つながり、共存するまちに

中国の威信をかけたともいえる北京オリンピックが先日終わりました。日本の各メディアは競ってその様子を伝えました。

開会に先立って行われた恒例の聖火リレーは、今回チベット問題が関係し、中国国内外で混乱が起こり、死傷者まで出るという痛ましい事件になってしまいました。このような、民族問題が発端となった紛争は世界各地で起こり、なかなか解決できないまま長引いています。さらに新たな争いも次々と各地で起こり、たくさんの被害者を出しています。

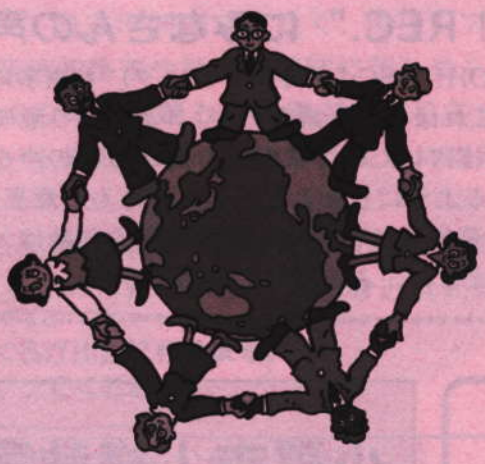
日本では一見民族問題はないように思いがちですが、本当にそうでしょうか。今から20年余り前、「日本は単一民族国家だから、アメリカと違って教育が行き届いている。」というような発言をして、国際的にも大きな批判を浴びた首相がいました。にもかかわらず、その後も同じような発言をする政治家が後を絶たず、そのたびに関係する多くの人々の心を傷つけています。

先の6月国会で「アイヌ民族を先住民として認めるよう政府に求める国会決議」が全会一致で採択されました。永い間差別で苦しめられていたアイヌの人々に先住民としての光がようやく当たろうとしています。しかし政府は慎重な姿勢を崩しておらず、アイヌの人々が求める具体的施策が実現できるか不透明であるとマスコミは伝えています。

このような先住民であるアイヌの人々だけでなく、人種・民族の異なる人々がたくさん日本で生まれ育ち、生活しています。また産業の発達や少子高齢化などで、日本は今後ますます外国の人々の力を必要としており、実際にその数も増加してきています。小郡でもそのような人々の姿を見る機会が多くなっています。国際化が進み、さまざまな人種、民族の人々が交流しながら、国が成り立っていることを考えるとき、日本に限らず、単一民族国家という考え方は成り立たなくなっていると考えるべきです。

オリンピック憲章は人種、宗教、政治、性別、その他の理由に基づく国や個人への差別を否定しています。そんな世界を五輪の旗は象徴しています。私たちも日ごろの生活の中でも、違いを無視し排除するのではなく、違いを認め、つながり、共存していく感覚・感性を育てていく必要がありそうです。

（文：古賀）



＜2ページの答＞

1．障害者のための国際シンボルマーク　2．身体障害者標識　3．盲人のための国際シンボルマーク
4．耳マーク　5．ほじょ犬マーク　6．オストメイトマーク
7．ハートプラスマーク　8．聴覚障害者標識

「絵本で育つ親と子のコミュニケーション」

「人権のまちづくり」は市民のみなさんが主人公であり、みなさんの力が必要です。
そのために人権センターがみんなの出会い･つどい･学びの場となることを願っています。
開設から３年余りの間にたくさんの出会いがありましたが、今回はその中のお一人
「子育て見守り隊･Ｉさん」(ペンネーム)に、日頃考えていることを書いていただきました。

社会に振り回され心にゆとりをもてない大人。
ゆったりと深く考えたら、何が子どもにとって良いのかということや、自分が考えるべきことが感じられるのに、多数派でいることが安心だと思い込み、考えようとしない世の中の風潮。親として、子どもたちと関わる大人として、世の中と真剣に向き合っているから感じられることかもしれませんが、私自身日本社会はどうなっていくのだろかと不安になります。しかし、自分だけよければ、と孤立化することを恐れ、口を閉ざしてしまう面もあります。

そんな私にとって、絵本の世界で子どもたちと関わることは、大人になり、忘れてしまっていた自然で素直な子どもたちの目線がとても新鮮に感じられます。そのゆったりとした、素朴な時間が私のこころを癒してくれます。なんて贅沢な時間なんだろうと感じながら、レイチェル・カーソン著「センス・オブ・ワンダー」の、大人が介入しない子どもと自然の共生の世界を思いかえすことがあります。この本に出会ったときは、大人がみようとしなければみえないものを感じることができ、とても感動したことを覚えています。

子どもにとって絵本や自然は切り離せないものであり、大人にとっても同じく切り離せないものであると、ある先生のお話をお聞きした時にも感じました。子どもに絵本との出会いの場をつくることは、子どもの学ぶ権利＝人権を保障することではないかと思います。

昨今、学力向上と目先の成果ばかりを学校教育に求め、学校まかせ、社会まかせにしている大人の姿勢を感じます。私は、幼い頃からの家庭での親と子のコミュニケーションによる絆と、暖かな思いを親子が一緒に感じることが大切なのではと考えています。

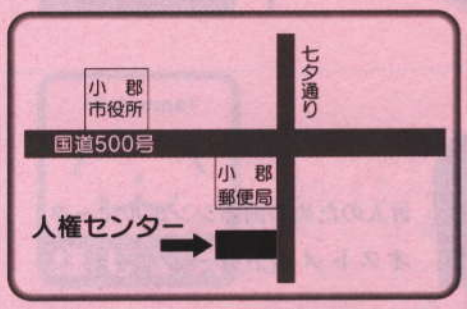
そんなことに役立つ絵本の良さを、ひとりでも多くの方に伝えていきたいと思います。

（文：子育て見守り隊・Ｉさん）

～ “OH! REC.” にみなさんの声を！～

この人権センター機関紙“OH! REC.”（オー！レック）も無事に第10号までになりました。実は前号をお配りした後、「これはなんと読むのか」「どういう意味があるのか」というご質問をいただきました。第１号には書いたのですが、今回からその声を生かしタイトルのデザインを変え、読み方・意味がわかるようにしました。これからもご意見をよろしくお願いします。

また、人権に関わる投稿を募集しています。原稿採用の判断は、“ＯＨ！ＲＥＣ.”編集会議にお任せいただくことになりますが、ふるってご応募下さい。



小郡市人権教育啓発センター

小郡市人権教育啓発センター

所在地：〒838-0141　小郡市小郡296
でんわ&Fax：0942-80-1080（直通）
E-mail：oh-rec@iwk.bbiq.jp
H.P. http://www.city.ogori.fukuoka.jp/oh-rec/